

平成16年3月25日



平成16年2月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	32,129,362 万円	100.0%	105.1%(102.1%)	30,228,587 万円	100.7%(97.9%)
食 料 品	26,085,511 万円	81.2%(77.6%)	105.7%(102.3%)	24,602,697 万円	101.3%(98.0%)
農 産	3,823,599 万円	11.9%(11.1%)	103.8%(98.7%)	3,612,065 万円	99.4%(94.6%)
水 産	3,198,495 万円	10.0%(10.2%)	102.9%(99.4%)	3,010,716 万円	98.5%(95.2%)
畜 産	2,867,680 万円	8.9%(8.9%)	100.7%(98.5%)	2,678,364 万円	96.2%(94.2%)
惣 菜	2,389,156 万円	7.4%(7.5%)	108.3%(103.8%)	2,240,615 万円	103.0%(98.8%)
日配食品	6,109,886 万円	19.0%(17.8%)	106.2%(103.1%)	5,772,182 万円	101.8%(99.0%)
加工食品	7,696,695 万円	24.0%(22.1%)	108.6%(106.0%)	7,288,755 万円	104.6%(101.7%)
生活関連	2,636,282 万円	8.2%(9.3%)	102.0%(99.3%)	2,498,595 万円	98.4%(96.3%)
衣 料 品	1,595,663 万円	5.0%(6.8%)	101.0%(100.3%)	1,515,269 万円	98.5%(97.8%)
そ の 他	1,811,906 万円	5.6%(6.3%)	105.2%(107.5%)	1,612,026 万円	97.9%(99.8%)

数 値

全店総売上高	32,129,362 万円	店 舗 数	3,277 店舗
総売場面積	5,647,041.3 m ²	総従業員数	160,597 人

店舗平均月商	9,804.5 万円	平均客単価	1,981.2 円
月間m ² 売上(前月)	5.7 万円(6.0 万円)	平均店舗面積	1723.2 m ²
月間坪売上(前月)	18.8 万円(20.0 万円)	パート比率(前月)	74.0%(74.9%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

全体概況

- ・ 昨年2月以来1年ぶりに既存店が昨年を上回る。しかし、うるう年で営業日が1日多く、その1日が日曜日であったことを考えると手放して喜ぶことは出来ない
- ・ 下落が続いていた単価が、先月に続き上昇傾向にあるという報告があがり始めてきた
- ・ 全般的に暖かい日が多く、春物商材に動きがでてきた。反面鍋物商材などの動きは鈍かった
- ・ 酒類の売上と米の売上が貢献し、加工食品部門が全体を牽引しているが、依然として主力の生鮮3品が全て昨を下回っており、生鮮食品のてこ入れが課題となっている

商品動向

農産

- ・ 相場の回復と、サラダ商材の好調により売上も回復している。昨年の相場が高かった(昨比105.6%)ことを考えると、好調といえる
- ・ いちごは伸び悩んだが、りんご、みかんが好調に推移し、果物も久しぶりに昨年に近い売上となった

水産

- ・ 暖冬の影響から、お造り、刺身が好調に推移
- ・ うるう年で、かつ、BSE、鳥インフルエンザの恩恵を受けながら昨年に届かないことから、上昇傾向とはまだ判断できないとの声が大勢を占める

畜産

- ・ BSEよりも鳥インフルエンザの影響が深刻化している。各社、代替商品の開発に苦慮している

惣菜

- ・ 気温と天候に恵まれたこともあり、寿司、巻物、行楽商材が好調に推移。しかし鳥インフルエンザの影響で鶏肉関連は低調
- ・ 気温の上昇により春物商材が軒並み好調。また、鶏肉を除く揚げ物も好調に推移した

日配・加工食品

- ・ 日配食品は、相場安と鳥インフルエンザの影響で卵が非常に低調。昨年比90%前後で推移したところが多い
- ・ パン、デザート類は先月に引き続き好調。特に和菓子は昨年を大きく上回る
- ・ 加工食品は、暖冬により飲料の売上が好調。半面鍋物商材は低調
- ・ 花粉の飛散が少なかったことから関連商品は伸び悩んだ
- ・ 米の相場高、酒販免許の自由化が大きく寄与し、全体的な売上は非常に好調

その他

- ～節分の売上動向について
- ・ 落花生は、相場高もあり国産、中国産とも売上は好調
- ・ 恵方巻は、年々定着してきたこともあり好調に推移
- ・ いわしは、小型で安価な商品は好調に推移。逆に値段が上がり、大型になると売れなくなる
- ・ 曜日回りの影響もあり、全体としては昨年を若干割る結果となった
- ・ 全般的に小型化、少量化の傾向が強く、それに伴い単価も落ちている

～バレンタインデーの売上動向について

- ・ 友達に送る、または自分で食べるチョコレートがトレンドとなっており、それに伴い、比較的シンプルで値段も手ごろな商品の動向がよい。ベーシックな商品も好調に推移した
- ・ 義理チョコは毎年縮小傾向となっている
- ・ 昨年に続き、NBの商品は売上が落ちている。逆に手作り商材の動向がよい
- ・ 他のカレンダーマーケット同様、単価は下落傾向となっている
- ・ 全体的な売上は95～110%とかなりばらついているが、早期に展開したところは好結果となっている

～BSE、鳥インフルエンザの影響について

- ・ 牛肉は、昨年比で70～100%、平均では80～90%と先月よりも悪化している
- ・ 構成比も先月よりも落ち込んでいるところが多い
- ・ 輸入再開のめどがたっていないことから、今後も好転の期待はもてない
- ・ 鶏肉は、昨年比で70～90%、平均では80%前後と、牛肉よりも深刻な状況となっている
- ・ 畜産部門に限らず、牛・鶏を使った惣菜、冷凍食品、たまごにも影響を及ぼしている
- ・ これからの行楽需要に対する代替品として、オーストラリア産牛肉をはじめ、ラム肉、ダチョウ、豚肉、魚介類などがあがっているが、売上には不透明な部分があり、各社非常に苦慮している